

1 中晩生品種の 育成のねらい

①業務用に向く高品質な八重品種

早生系と比較すると、栽培期間が長いので高品質な切り花が生産できます。中晩生系は5月ごろから11月ごろまでの幅広い栽培期間に適應します。

②低コストで栽培が可能

無加温栽培中心の季咲きの作型が主体なので、冬季の栽培と比較すると低コストで生産が可能です。

③美しい花色

厳しい選抜基準をクリアしてきた品種は、あらゆるシーンで引き立つよう考えて育成されています。特に、ピンク系は蛍光灯下で鮮やかに発色するように改良されました。

④美しい花型

業務用ではただ八重で咲くだけでなく、優雅さや華麗な印象を与える花型が求められます。各品種とも花弁の形状や枚数まで考慮して育成されているので、魅力的な花型になっています。

⑤生育旺盛で高い栽培性

中晩生品種なので冬場の出荷には向きませんが、その他の時期は適地を選べば出荷が可能です。また、産地を結べば長期間同一品種を市場へ供給することが可能です。中晩生品種は草丈の伸長に優れるので、草丈確保が困難な暖地での秋切りでも安心して栽培が可能になります。



↑中晩生品種は冬季栽培よりも低コストで生産でき、幅広い栽培期間に適應する。写真は杏色の花色が美しい「Fパレオ アプリコット」。

業務用出荷で高品質な 上位生産を目指す！



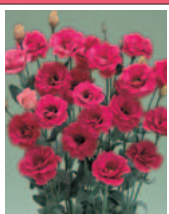
ユーストマの 中晩生品種を 生かす栽培技術

タキイ富士見試験地
むか い ゆたか
向井 豊

平成20年の経済状況は激動の年になり、景気に敏感な切り花業界も大きな影響を受けました。しかし、ユーストマは業務需要が高いわりにはほかの切り花に比較すると相場は比較的軽微な影響でした。生産者の方々は上位生産者として、この苦境を乗り切っていただきたいと願っています。タキイには品質の高い業務用向きの中晩生品種が多いので、ぜひこのページを参考にしていただきたいと思います。

2 各品種特性と栽培留意点

「F ₁ ミンク」 新発売		
	特 長	純白八重で中小輪のバラ咲き(1割前後乳白色の花色が分離)。花弁の枚数が多く高温長日でも安定した優美な花型を維持する。生育は旺盛で草丈は高く、暖地の秋切りでも草丈の心配はいらない。
	同様他品種との有利点	高温長日でも花弁数が多く花型が安定している。プラスチックにくく、冬季を除く幅広い作型に対応可能。
栽培管理	栽植密度、仕立て	株間、条間12cmが基本で、分枝数は5本が目標。
	土壌、温度、 灌水管理	花芽分化期から側枝伸長期に乾燥ぎみで管理すると、分枝数が減り十分な枝数が確保できないので、灌水管理に気をつける。特に、赤土や砂地の土壌は乾燥しやすいので多めに灌水する。適度な湿り気のある土壌では段咲き開花に、乾燥土壌では上部分枝で分枝の少ない頂天咲きの草姿になってしまう。
	特殊管理、注意点	他の品種と比較するとスリップスがつきやすいので念入りの防除が必要。
	有利な作型	◎暖地での11月出荷 ◎中間地の9～10月出荷 ◎寒高冷地の9月出荷

「F ₁ ラ・フォリア®」 新発売		
	特 長	中小輪で花型もよく、上品な存在感を出すことのできる花材。草勢は中程度であるが草丈伸長性に優れる。比較的小葉でやや細身の草姿であるが、花の大きさととのバランスが絶妙である。品種名は日比谷花壇の命名で商標登録も取得している。
	同様他品種との有利点	赤系の中では最も鮮やかな花形で、中小輪の花径。蕾の赤紫色との対比の美しさも観賞の楽しみの一つ。
栽培管理	栽植密度、仕立て	株間、条間12cmが基本であるが、葉がやや小さく草姿がスリムなので基本より密植でも可能。分枝数は5本以上が目標。
	土壌、温度、 灌水管理	段咲き開花性が強いので、側枝伸長期からの灌水はやや控えめにする。開花時期の夜温が16℃を下回ると花弁に紫色が浮かび上がってきて、気温が下がるごとに花色が濁っていくので、鮮やかな花色を維持させるために保温する。肥沃な土壌ではチップバーンが出やすいので、花芽分化期前後の生育が緩やかにゆっくり進むように栽培する。
	特殊管理、注意点	赤系は強光線下で花焼けしやすいので、開花期には30%程度の遮光をするとよい。栽培難易度は高いので、十分性質を理解した上で栽培することが重要。
	有利な作型	◎暖地での11月出荷 ◎中間地の7～8月と9～10月出荷 ◎寒高冷地の8～9月出荷

● 「F₁ バレオ」 シリーズ

「F ₁ バレオ ピンク」		
	特 長	中晩生大輪。シリーズ中一番の人気品種で、桃色の定番品種。比較的栽培しやすく草丈の確保が容易。
	同様他品種との有利点	蛍光灯下で特に際立つ花色の美しさが一番のセールスポイントで、業務需要にマッチしている。
栽培管理	栽植密度、仕立て	株間、条間12cmが基本で、分枝数は5本が目標。園場で早めに枝数を制限すると花首が太く一回り大きな立派な花になる。
	土壌、温度、 灌水管理	やや花首が細いので、肥沃な土壌の方ががっちりとした草姿になる。開花期も土壌に適度な湿り気があった方が伸びやかな花弁になる。
	特殊管理、注意点	短所は夜温が23℃以上になるところに花芽分化期を迎えると、花弁数が減少する。夜温が高いほど花弁数は減少していくため中間地での8月下旬～9月中旬出荷は避ける。
	有利な作型	プラスチックがしにくいので暖地での冬季栽培も可能であるが、早生品種と比較すると開花までの期間が長くなる。◎暖地では母の日と文化の日を中心とした出荷期 ◎中間地は6～7月と9月下旬～11月上旬の出荷期 ◎寒高冷地では8月～10月上旬までの出荷期

「F ₁ バレオ アプリコット」 新発売		
	特 長	花色は杏色で、他社を含めて同系色の中では最も濁りのない鮮やかな花色。特に秋のシーズンに欠かすことのできないおすすめの花色。
	同様他品種との有利点	形質はほぼ「F ₁ バレオ ピンク」に準じることが、「F ₁ バレオ ピンク」よりも花首が太く花弁の枚数も安定している。
栽培管理	栽植密度、仕立て	株間、条間12cmが基本で、分枝数は5本が目標。園場で早めに枝数を制限すると、花首が太く一回り大きな立派な花になる。
	土壌、温度、 灌水管理	肥沃な土壌の方ががっちりとした草姿になる。開花期も土壌に適度な湿り気があった方が伸びやかな花弁になる。
	特殊管理、注意点	短所は夜温が23℃以上になるところに花芽分化期を迎えると、花弁数が減少する。夜温が高いほど花弁数は減少していくため、中間地での8月下旬～9月中旬出荷は避ける。
	有利な作型	◎暖地での10～11月出荷 ◎中間地の9～10月出荷 ◎寒高冷地の9月出荷

「F ₁ バレオ シャンパン」		
	特 長	黄色地に桃の絞り色でメインの花色ではないが、お洒落な花色が年々欠かすことのできない重要なものになっている。大輪で豪華な印象の花で、生育旺盛で草姿の揃いに優れる。
	同様他品種との有利点	花径が大きく花型が整っている。
栽培管理	栽植密度、仕立て	株間、条間12cmが基本で、分枝数は5本が目標。
	土壌、温度、 灌水管理	初夏から夏にかけての栽培では、茎折れが発生することがある。特に、田んぼの土壌のような保水性のよい粘土質土壌で発生しやすいので過灌水に注意が必要。肥沃な土壌ではチップバーンが出やすいので、花芽分化期前後の生育が緩やかにゆっくり進むように栽培する。
	特殊管理、注意点	暖地での秋から年内切りではやや草丈が低く分枝が少なくなる。夏以降の花は桃色の絞りが薄くなる。
	有利な作型	◎暖地での5～6月出荷と11月出荷 ◎中間地の7～8月と9～10月出荷 ◎寒高冷地の8～9月出荷

「F ₁ バレオ イエロー」		
	特 長	淡い黄色の大輪で、花の大きさはシリーズ中最大。季咲きの花は花型も美しくなる。
	同様他品種との有利点	暖地での春出荷は、他社の黄色品種と比較して特に豪華な花になるのでねらい目。
栽培管理	栽植密度、仕立て	株間、条間12cmが基本で、分枝数は5本が目標。
	土壌、温度、 灌水管理	初夏から夏にかけての栽培では、茎折れが発生することがある。特に、田んぼの土壌のような保水性のよい粘土質土壌で発生しやすいので過灌水に注意が必要。肥沃な土壌ではチップバーンが出やすいので、花芽分化期前後の生育が緩やかにゆっくり進むように栽培する。
	特殊管理、注意点	生育は旺盛であるが、高温期に花弁の減少が顕著なのでこの時期の出荷は向かない。
	有利な作型	◎暖地での5月出荷 ◎中間地での7月、10月上旬出荷 ◎寒高冷地の8月出荷

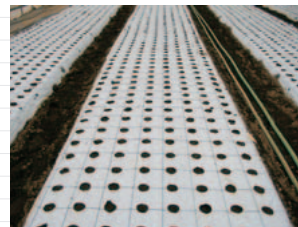
2 各品種特性と栽培留意点

「TU-559」(F ₁ パレオ グリーン)		
栽培管理		特 長
		濃緑色の花色で花弁数が多い中大輪の花。シリーズの中では一回り小さな花径になる。
		同様他品種との有利点
		枝数が少なくなる秋からの出荷期でも分枝数が多い品種。
栽培管理	栽植密度、仕立て	株間、条間12cmが基本で、分枝数は5本が目標。
	土壌、温度、灌水管理	灌水が少なすぎると花が小さくなりやすいので、開花期は乾燥させすぎないようにする。
	特殊管理、注意点	季咲きでは花数がつきすぎてしまい花径が小さくなるので、摘蕾して花数を調整する。
	有利な作型	◎暖地での5～6月出荷と10～11月出荷 ◎中間地での7～8月、10月～11月上旬出荷 ◎寒高冷地の8～9月出荷

※「TU-559」(F₁パレオ グリーン)は試験品種です。



↑「F₁ラ・フォリア」の低温花。美しく発色させるには保温が必要。



↑従来多く見られた12cm×12cm株間の8条植え。



↑最近流行の4条植え。10cm×10cmの株間で中央は30cm空いている。



↑短日処理の一例。夕方の5時から朝8時までの15時間100%遮光。

3 中晩生品種の作型別栽培ポイント

●暖地

作型図例 (※産地や天候により出荷期が大きく前後することがあります)

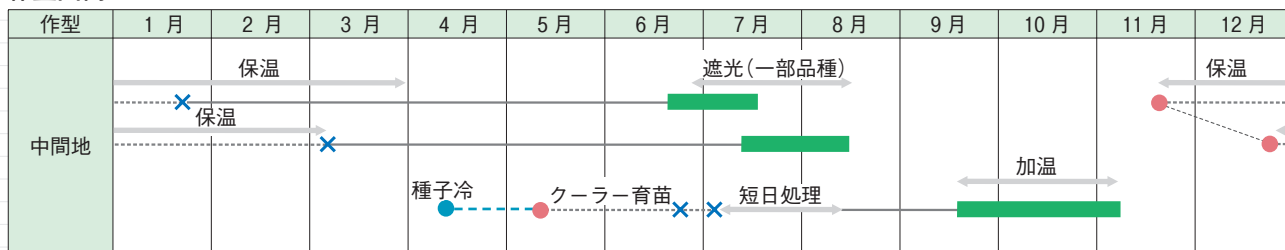
作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
暖地					種子冷	クーラー育苗	遮光				加温	
						クーラー育苗	遮光					
									クーラー育苗	クーラー育苗		
												加温

●---種子冷 ●播種 ----育苗期 ×定植 —生育期 ■出荷期

4月～6月中旬出荷	作型の特長	燃料代の高騰により中間地からの出荷が遅れがみ傾向にあり、暖地での責任出荷期が5月いっぱいから6月の高温期まで伸びています。
	作型の注意点と工夫	中晩生系を使用するに当たり、デメリットは早生系よりも開花に日数を要する点があります。したがって、4月中旬以降の出荷が主体になります。5月、6月と温度が高くなるにつれて早生系よりも高品質な中晩生系が市場で有利になります。
11～12月出荷(年内出荷)	作型の特長	暖地で増加傾向にある作型です。ただし、高温ロゼットが問題になる時期なので種子冷+クーラー育苗、苗冷蔵などが必要で、施設と技術を要する作型になります。定植時期は産地により異なりますが、7月下旬～8月中旬になります。
	作型の注意点と工夫	定植後9月の天候で出荷期が大きく前後することもあります。電照を併用すると切り上がりが早まり、プラスチック予防の効果も期待できます。10月上旬以降は病気の予防も兼ねて加温が必要になります。

●中間地

作型図例（※産地や天候により出荷期が大きく前後することがあります）



●---種子冷 ●播種 ---育苗期 ×定植 —生育期 ■出荷期

7月～8月上旬出荷	作型の特長	中間地では季咲きの作型です。1～3月定植中心でボリュームのある切り花が期待できます。
	作型の注意点と工夫	定植期には地床の保温に努めスムーズな活着を促します。出蕾以降、分枝伸長期に過灌水による茎折れ、チップバーンに注意しながら栽培します。根に安定した水分供給とゆっくりと生育させることが茎折れ防止のポイントです。また必要以上の側枝を落とすことが良品生産のポイントになります。赤系やピンク系は開花期が強日射の時期なので、花焼け防止に30%程度の遮光を行います。
9月中旬～10月出荷	作型の特長	定植時期が6月下旬～7月上旬の高温ロゼットが問題になる時期なので、種子冷、クーラー育苗の併用などの対策が必要になります。
	作型の注意点と工夫	定植後1カ月の短日処理を行うことで、草丈の確保や出荷期の安定が可能になる産地が増えていきます。短日処理中にトンネル内の温度が高くないようにすることが、短日処理成功の秘けつです。

●寒高冷地

作型図例（※産地や天候により出荷期が大きく前後することがあります）



●播種 ---育苗期 ×定植 —生育期 ■出荷期

8～9月出荷	作型の特長	5～6月ごろが定植適期になり、季咲きから抑制の作型になります。
	作型の注意点と工夫	定植時期が低温期の場合は十分に地床を保温し、スムーズな活着を促します。7月を中心とした生育期に茎折れが出やすいのでチッソ、水分過多にならないよう十分注意します。茎折れしやすい品種は排水性のよい圃場に植えるとういでしょう。「F ₁ ラ・フォリア」は開花期に中間地と同様に遮光をするとよいでしょう。9月ごろから低温多湿で花に灰色かび病が発生するので、温風機などで保温と通風に努めます。



↑30%程度のハウス遮光。



↑「F₁パレオ ピンク」。花芽分化期から開花期が高温で推移した場合に花弁の減少が見られる。



↑「F₁パレオ イエロー」の茎折れ。花芽伸長期は風通しをよくしてゆっくり生育させるように栽培する。



↑ガラスチングの予防、回避技術として電照を行う産地もある。

